

大分県イチゴ新品種「大分6号（商標名：ベリーツ）」の育苗期施肥法

【研究のポイント】

大分県イチゴ新品種「大分6号」は、果皮色が鮮やかな赤色で、糖度が高いという特徴をもち、平成29年に「ベリーツ」としてデビューしました。平成30年からはさらに栽培面積が拡大しています。

「大分6号」はこれまでに作られてきた品種に比べ、花芽分化が早く11月上旬から出荷できます。しかし、イチゴの特性上、出荷開始時期が早いと、需要期である12月のクリスマスシーズンに出荷量が少なくなる傾向があります。

そこで、農業研究部果菜類チームでは、12月のクリスマスシーズンに多く出荷できるように、花芽分化時期を遅らせる技術を開発しました。

花芽分化は育苗期の低温・短日・低窒素（肥料分が少ない）条件で誘導されるため、育苗期の肥料の種類や量、施肥時期などを検討し、技術開発を行いました。



目標とする花芽分化時期を9月15日頃に設定し、11月下旬からの出荷とすることで、需要期であるクリスマスシーズンに出荷量を増加させ、生産者の所得向上を図ります。

【研究の成果】

表 時期別葉柄硝酸イオン濃度の推移

処理	8/7	8/14	8/21	8/28	9/4	9/11	花房 分化日
①花むすめ 液肥なし	148	64	84	640	195	37	9/11
②花むすめ 液肥あり 液肥8/14,8/22	148	64	1120	1860	540	111	9/15
③LT70 3g/株	4025	4300	2560	1540	420	56	9/21
④LT70 4g/株	4300	4875	2220	2300	740	178	9/19
⑤LT70 5g/株	3200	4600	2520	3040	940	740	9/20
⑥LT100 4g/株	2480	3300	2940	2820	1660	480	9/24
⑦LT100 5g/株	2400	3340	2500	3420	1720	920	9/26

「大分6号」の花芽分化は、8月下旬から9月上旬の硝酸イオン濃度が影響しており、この時期の硝酸イオン濃度を1,000ppm程度に高めることで花芽分化時期を制御できることが明らかになりました。

【生産者の声】



大分県イチゴ販売強化対策協議会  
田中 廣幸 会長

12月～2月の高単価時期に多く出荷し、所得向上につなげたいです。



【連絡先】

担当： 農林水産研究指導センター 農業研究部 果菜類チーム  
TEL： 0978-28-0671（問い合わせは企画指導担当へ）  
住所： 大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8